

令和 6 年 5 月 30 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00535

研究課題名（和文）コーパス日本語研究の高度化と多面化のための総合的研究 語史研究への応用を中心に

研究課題名（英文）An integrated study for the advancement and expansion of Japanese corpus linguistics

研究代表者

田野村 忠温（Tanomura, Tadaharu）

大阪大学・大学院人文学研究科・教授

研究者番号：40207204

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題は、近年電子アーカイブの形で公開されたり初めて影印出版されたりすることによって利用可能になった各種の歴史的資料を活用し、日中両語の近現代語彙の形成とそれに関わる両語間の相互影響、日中両国における初期英語学習史などの問題を中心とする多数のテーマの研究に取り組んだ。その成果は、論文28件、著書3件（うち1件は内田慶市氏との共編著）、国内外での講演・口頭発表27件の形で公にした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果はすべて独自の考察、見解を明確に打ち出すことを基本としており、従来研究の対象とされることのなかった問題を論じ、あるいは、従来の議論を抜本的に見直している。その意味において、各成果が当該の研究分野の進展に実質的に寄与し得るものと信じる。また、言語に関わる問題は一般の人の関心を引きやすいが、謬説が広く流通していることもある。研究成果の一部はそうした俗説の訂正を通じた社会的な啓蒙をも目的としている。

研究成果の概要（英文）：This research project, drawing upon a variety of historical materials that have recently become available through electronic archiving and publication of facsimile editions, performed a number of studies centered on the formation of modern neologisms in Japanese and Chinese and the mutual influences between the two languages, and the history of early English learning in Japan and China. The results were made public in the forms of 28 papers, 3 books (one of which was co-authored with Keiichi Uchida), and 27 lectures and oral presentations, domestic and international.

研究分野：言語学・日本語学

キーワード：コーパス言語学 歴史的資料アーカイブ 近代日中言語交流 日中初期外国語学習史

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究代表者は、日本語研究の分野でコーパスという語がまだ普及していなかった 1990 年代前半以来、電子媒体の言語研究資料の可能性に着目し、各種の電子資料やソフトウェアの開発、利用法の開拓、そうした研究手法の問題点の考察に取り組んできた。その後、社会では特に言語研究には関わらないところで各種の歴史的資料の電子アーカイブ化とその公開が一般化した。研究代表者はそうした電子アーカイブが言語の通時的な研究を飛躍的に進歩させ得ることを確信し、本研究課題ではそうした方向での言語研究の可能性を模索することにした。

2. 研究の目的

各種歴史的資料の電子アーカイブと近年の影印出版を活用し、日中両語における近現代語彙の形成や、日中両国における初期英語学習史などに関わる多数の研究を試行し、それによって当該の各分野に有用な知見をもたらすことを目指した。

3. 研究の方法

歴史的資料の電子アーカイブと影印出版を活用して種々の研究に取り組む。ただし、問題ごとにそれに適した方法を考える必要があり、汎用的な方法論があるわけではない。一般論として言えるのは、できるだけ多くの資料をできるだけ正確に観察し、それに基づいてできるだけ正確に考察するという点だけである。

4. 研究成果

本研究課題の成果のうち主なものを研究テーマの性質ごとに分類して以下に記す。研究成果は、論文 28 件、著書 3 件（うち 1 件は内田慶市氏との共編著）、国内外での講演・口頭発表 27 件の形で公にした。

(1) 近代日中両語における新語の形成とそれに関わる両語間の相互影響

以下の語、語群の歴史を考察した。いずれも従来そもそも研究されていなかったか、従来の説に大きな問題があったかのいずれかである。

- ・日中両語で共通に使われる「化石」の語の歴史
- ・日中両語で共通に使われる「設計」の語の歴史
- ・日中両語で共通に使われる「接種」の語の歴史
- ・中国語で使われ、過去には日本語でも使われていた「電視」の語の歴史
- ・日中両語における日本語を表す名称の歴史
- ・日中両語における中国語を表す名称の歴史
- ・日中両語におけるドイツ国名の歴史

また、中国語の表現を基準として見たときの日本語の漢語の特異性についても考察した

(2) 中国の近代外来語とそれに基づく日本語の外来語表記

19 世紀から 20 世紀前半にかけての中国で作られたコーヒー、カレー、ビールを表す語彙および貨物自動車の類を表す「ka 車」という語の歴史について考察した。

また、コーヒーの名称の現在日本で使われている「珈琲」という漢字表記が日本製であるとする通説を検証し、それが実は中国で作られて日本に伝えられ普及したものであることを明らかにした。

(3) 日中両国における初期英語学習史

幕末の日本で出版された最初期の英語学習書のうち、中浜万次郎訳『英米対話捷徑』、著者不明『和英商賈対話集』、小島雄斎輯『商用通語』、清水卯三郎『彙んぎりしことば』の 4 点の依拠資料と著作者の問題について考察した。

中国の英語学習史に関しては、18 世紀中葉に編まれた中国初の英語語彙集である『英吉利国訳語』（「英吉利」の各字には実際には口偏が付く）の編纂者と編纂過程を考察した。また、同時期に編まれた北京故宮博物院蔵『華夷訳語』丁種本写本に含まれる欧州 5 言語（ラテン語、ドイツ語、ポルトガル語、フランス語、イタリア語）の語彙集について注音法その他に関する考察を行った。さらに、18 世紀中葉から 20 世紀初頭にかけて出版された初期英語学習書十数点における英語の発音の漢字表記について流音を中心に考察した。

加えて、19 世紀中国で出版された英語の辞書、語学書が日本人の英語学習に与えた影響についても考察した。

(4) 近代中国の世界地理文献に関する書誌学的考察

中国語の通時的な研究にも使われることのある 19 世紀中国の世界地理文献である謝清高口述、楊炳南筆録『海録』と魏源『海国図志』のそれぞれについて、従来未知の版の区別が存在

することを明らかにするとともに諸版の系譜関係に考察を加え、従来粗略な水準にとどまっていた学界の理解を正した

また、中国語の語彙の研究において使われることのある魏源『海国図志』と王錫祺輯『小方壺齋輿地叢鈔』についてそれぞれの言語研究資料としての信頼性の問題を考察した。

(5) その他

「日本語学」およびその関連語の意味と構造の変化を論じた。

和製英語の概念と研究に関わる問題点を論じた。また、「ダッシュ」「プライム」が和製英語だとする通説を検証した。

学界で従来正確で安定した理解のない状態で使われてきた音訳と意識の用語、概念を抜本的に再考した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計28件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 20件）

1. 著者名 田野村忠温	4. 巻 44
2. 論文標題 幕末英語学習書4点の依拠資料と著作者 『英米対話捷徑』『和英商賈対話集』『商用通語』『ゑんぎりしことば』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 或問	6. 最初と最後の頁 19～42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 田野村忠温	4. 巻 1
2. 論文標題 『海国図志』版問題続考 新たな版区別の発見と諸版間の継承関係	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 大阪大学大学院人文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 219～233
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 田野村忠温	4. 巻 41
2. 論文標題 音訳と意識 概念の体系化と歴史	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 或問	6. 最初と最後の頁 141-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 田野村忠温（馮Yue訳）【Yueは玉偏に月】	4. 巻 -
2. 論文標題 清代欧洲諸語言詞典、学習書籍中の注音方式 音節結構の処理	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 孫伯君・麻曉芳主編『“ 訳音対勘 ” 的材料与方法』（合肥：黄山書社）	6. 最初と最後の頁 375～388
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田野村忠温	4. 巻 42
2. 論文標題 『海録』諸版とその系譜	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 或問	6. 最初と最後の頁 1～16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田野村忠温	4. 巻 63
2. 論文標題 『海国図志』版問題新論 従来未知の版区別の発見とその含意	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大阪大学大学院文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 115～143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田野村忠温	4. 巻 40
2. 論文標題 「化石」の成立と展開	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国語語彙史研究会編『国語語彙史の研究 四十』(和泉書院)	6. 最初と最後の頁 63～80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田野村忠温	4. 巻 40
2. 論文標題 音訳語における口偏の機能について 口偏蔑視表示説の検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 或問	6. 最初と最後の頁 13～26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田野村忠温	4. 巻 34
2. 論文標題 「接種」の語史 種痘関連用語の生成と消長	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 阪大日本語研究	6. 最初と最後の頁 27～45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田野村忠温	4. 巻 62
2. 論文標題 日本語の漢語の文法的特異性とその中国語への影響 「設計」の近現代語史	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大阪大学大学院文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 127～172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田野村忠温	4. 巻 37
2. 論文標題 コーヒーを表す中国語名称の変遷	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 或問	6. 最初と最後の頁 41～60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田野村忠温	4. 巻 12
2. 論文標題 漢語複合名詞の形成と再分析 動詞-名詞型複合名詞の二義性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代日本語研究	6. 最初と最後の頁 18～37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田野村忠温	4. 巻 54 (文化動態論篇)
2. 論文標題 北京故宮博物院蔵『華夷訳語』丁種本第1類の分析 西洋館訳語の編纂とドイツ語の名称の問題を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 待兼山論叢	6. 最初と最後の頁 1~32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田野村忠温	4. 巻 38
2. 論文標題 カレーを表す中国語名称の変遷	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 或問	6. 最初と最後の頁 15~25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田野村忠温	4. 巻 -
2. 論文標題 「pi酒」の謎の解 この不可解な名称の成立過程 【piは口偏に「卑」】	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 沈国威・奥村佳代子編『内田慶市教授退職記念論文集 文化交渉と言語接触』(東方書店)	6. 最初と最後の頁 165~178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田野村忠温	4. 巻 33
2. 論文標題 音訳語「珈琲」の歴史	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 阪大日本語研究	6. 最初と最後の頁 33~60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田野村忠温	4. 巻 61
2. 論文標題 『英吉利国訳語』の編纂者と編纂過程 中国最初の英語辞典の分析 【「英吉利」の各字には実際には口偏が付く】	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大阪大学大学院文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 125 ~ 174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田野村忠温	4. 巻 38-7
2. 論文標題 和製英語 悪習との訣別	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本語学	6. 最初と最後の頁 54 ~ 63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田野村忠温 (孫暁訳)	4. 巻 2
2. 論文標題 一九世紀中国有関英語的出版物对日本人英語学習の影響: 概観与福沢諭吉《増訂華英通語》的分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 李雪涛、沈国威主編『亜洲与世界』第2輯(北京: 社会科学文献出版社)	6. 最初と最後の頁 320 ~ 334
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田野村忠温 (朱暁平訳)	4. 巻 5
2. 論文標題 新出資料道光本《華英通語》及中国早期英語學習書の系譜	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 沈国威・彭晞・王奕紅主編『亜洲概念史研究』第5巻(北京: 商務印書館)	6. 最初と最後の頁 113 ~ 136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田野村忠温	4. 巻 36
2. 論文標題 言語研究資料としての近代中国地理文献彙集の信頼性 『海国図志』と『小方壺齋輿地叢鈔』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 或問	6. 最初と最後の頁 1～10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田野村忠温	4. 巻 32
2. 論文標題 福沢諭吉の「コルリ」(カレー)をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 阪大日本語研究	6. 最初と最後の頁 25～35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田野村忠温	4. 巻 39
2. 論文標題 「日本語学」とその関連語 意味と構造の変容	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国語語彙史研究会編『国語語彙史の研究 三十九』(和泉書院)	6. 最初と最後の頁 1～18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田野村忠温	4. 巻 60
2. 論文標題 日本語の呼称の歴史	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大阪大学大学院文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 127～183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田野村忠温	4. 巻 13
2. 論文標題 ドイツ国名「独逸」成立の過程とその背景 社会的条件と日本語における音訳語の特異性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東アジア文化交渉研究	6. 最初と最後の頁 61～79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田野村忠温	4. 巻 57-8
2. 論文標題 ダッシュ、プライム	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 数学セミナー	6. 最初と最後の頁 54～58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田野村忠温	4. 巻 52 (文化動態論篇)
2. 論文標題 中国語を表す言語名の諸相 その多様性、淘汰と変質、用法差	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 待兼山論叢	6. 最初と最後の頁 67～102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田野村忠温	4. 巻 59
2. 論文標題 中国初期英語学習書における英語発音の漢字表記 流音の知覚と表記	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大阪大学大学院文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 221～272
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計27件（うち招待講演 9件 / うち国際学会 12件）

1. 発表者名 田野村忠温
2. 発表標題 『海国図志』版問題続考
3. 学会等名 東アジア文化交渉学会国際学術大会（南開大学、オンライン発表）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田野村忠温
2. 発表標題 《海国図志》版本問題新論
3. 学会等名 “事件・詞語・図像 中日近代交渉史学術報告会”（復旦大学）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田野村忠温
2. 発表標題 日中両語の相互影響と近現代語彙の形成
3. 学会等名 元智大学（台湾）講演
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田野村忠温
2. 発表標題 幕末英語学習書4点の依拠資料と著作者 『英米対話捷徑』『和英商賈対話集』『商用通語』『ゑんざりしことば』
3. 学会等名 関西大学アジア・オープン・リサーチセンター（KU-ORCAS）研究例会（関西大学東西学術研究所研究例会）（言語交渉研究班）「外国語学習の歴史と諸問題」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田野村忠温
2. 発表標題 舶来飲食名称的形成与漢語方言之間的相互影響 以“pi酒”一詞為中心【piは口偏に「卑」】
3. 学会等名 “東西味融：近代以来西餐在中国的演变、製作芸術与礼儀生活”學術研討会（復旦大学）（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Tadaharu Tanomura
2. 発表標題 Translation of Western languages and Sino-Japanese linguistic interactions
3. 学会等名 Nanyang Technological University (シンガポール) 講演
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 田野村忠温
2. 発表標題 西学東漸と日中近現代語彙の形成 課題の発見と考察
3. 学会等名 北京大学講演
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 田野村忠温
2. 発表標題 「ka車」の語史 その起源と展開 【kaは「上」+「下」】
3. 学会等名 “漢字文化圈的近代新詞語：材料、概念与翻譯”國際學術研討会（鄭州大学）（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 田野村忠温
2. 発表標題 「接種」の語史 種痘関連用語の生成と消長
3. 学会等名 東アジア文化交渉学会国際学術大会（啓明大学校（韓国）、オンライン発表）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田野村忠温
2. 発表標題 『海録』諸版とその系譜
3. 学会等名 関西大学アジア・オープン・リサーチセンター（KU-ORCAS）研究例会（関西大学東西学術研究所研究例会）（言語交渉研究班）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田野村忠温
2. 発表標題 『海国図志』版問題新論
3. 学会等名 関西大学アジア・オープン・リサーチセンター（KU-ORCAS）研究例会（関西大学東西学術研究所研究例会）（言語交渉研究班）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田野村忠温
2. 発表標題 「電視」の由来 翻訳新語研究の盲点
3. 学会等名 関西大学アジア・オープン・リサーチセンター（KU-ORCAS）研究集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田野村忠温
2. 発表標題 「化石」の語史 動詞-名詞型 漢語複合名詞の形成と再分析
3. 学会等名 東アジア文化交渉学会国際学術大会（二松学舎大学、オンライン発表）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田野村忠温
2. 発表標題 gali的中文名称小史【galiはカレー、実際には漢字】
3. 学会等名 “近代以来的西餐、洋飯書と大餐廳” 工作坊（復旦大学、オンライン発表）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田野村忠温
2. 発表標題 コーヒーを表す中国語名称の変遷 音訳語研究の新視点
3. 学会等名 関西大学東西学術研究所研究例会（言語交渉研究班）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田野村忠温
2. 発表標題 「pi酒」の謎の解 この不可解な名称の成立過程 【piは口偏に「卑」】
3. 学会等名 関西大学東西学術研究所研究例会（言語交渉研究班）・国際シンポジウム「文化交渉と言語接触」（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田野村忠温
2. 発表標題 日本語の呼称の歴史
3. 学会等名 日本近代語研究会春季発表大会（関西大学）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田野村忠温
2. 発表標題 日中言語交流の過去と現在
3. 学会等名 湖北第二師範学院講演（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田野村忠温
2. 発表標題 近代日中語彙交流の研究と言語資料アーカイブ
3. 学会等名 華中科技大学講演（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田野村忠温
2. 発表標題 中日両国語言中的德国国名の歴史 附論“額r馬尼雅”【rは口偏に「将」の旁】
3. 学会等名 四百年來東西方語言之互動 近代東西語言接觸研究學術會議2019（北京外國語大學）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田野村忠温
2. 発表標題 『英吉利国訳語』の編纂過程【「英吉利」の各字には実際には口偏が付く】
3. 学会等名 関西大学東西学術研究所研究例会（言語交渉研究班）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田野村忠温
2. 発表標題 中国初期英語学習書における英語発音の漢字表記 英語の流音の知覚と表記
3. 学会等名 東アジア文化交渉学会国際学術大会（香港城市大学）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田野村忠温
2. 発表標題 指称漢語的諸名称 它們的歷史与用法差異
3. 学会等名 数時代化時代の漢語全球教育史国際学術研討会暨世界漢語教育史研究学会年会（関西大学）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田野村忠温
2. 発表標題 デジタル情報と言語の研究
3. 学会等名 関西大学3研究所合同シンポジウム（関西大学）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田野村忠温
2. 発表標題 《華英通語》道光本 首部由中国人編写的正統英語學習書
3. 学会等名 語言互動史研究 近代東西語言接觸研究學術會議2018（北京外國語大學）（國際學會）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田野村忠温
2. 発表標題 言語研究に対する電子資料の新たな衝撃 コーパスの先にあるもの
3. 学会等名 中南地区日語教學學術研討會（湖南大學）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田野村忠温
2. 発表標題 中国語における日本語の呼称の変遷
3. 学会等名 漢字文化圏近代語研究会國際シンポジウム（北京外國語大學）（國際學會）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 田野村忠温	4. 発行年 2023年
2. 出版社 和泉書院	5. 総ページ数 532
3. 書名 英語東漸とその周辺	

1. 著者名 田野村忠温	4. 発行年 2023年
2. 出版社 和泉書院	5. 総ページ数 579
3. 書名 近代日中新語の諸相	

1. 著者名 内田慶市・田野村忠温（共編著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 関西大学出版部	5. 総ページ数 661
3. 書名 『華英通語』四種 解題と影印	

〔産業財産権〕

〔その他〕

田野村忠温Webサイト http://www.tanomura.com/
--

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関